

1. 評価結果概要表 案

作成日 平成19年 6月20日

【評価実施概要】

事業所番号	3270600269
法人名	社会福祉法人 花の村
事業所名	グループホーム 合歓の郷
所在地 (電話番号)	島根県江津市後地町834-1番地 (電話) 0855-55-1203

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市西津田8-8-10		
訪問調査日	平成19年6月15日	評価確定日	平成19年7月9日

【情報提供票より】(19年 6月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 7 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 5 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	5.35 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独○	○新築/改築
建物構造	木造瓦葺 造り 1階建ての 階 ~ 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷 金	有(円)	無○	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 86.4 歳	最低	79 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団森医院・医療法人社団花田医院・永井歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高齢化の進んだ地域の中で、地域と共存しながら「人生を全うする」お手伝いをするを理念に掲げて開設し3年が経過した。優しい気持ちで接したい、という職員のケアのもとで入居者は穏やかに暮らしている。緑豊かな環境のなかで、デイサービスや保育所との交流、温泉入浴や毎日の仏参など、入居者の心のよりどころとなることが多い。介護相談員の受け入れやターミナルケアの研究プロジェクトを発足させるなど、法人と連携しながら積極的にサービスの質の向上を目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主要課題の「理念のわかりやすさ」「地域との交流」「介護計画への職員、家族の声の反映」は改善に向けての努力がみられたが、「介護計画の見直し」など、まだ改善に結びついていない項目もあり引き続き今後の課題となっている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者やサブリーダーを中心に職員の意見を聞きながら自己評価を行っているが、全項目を掘り下げて話し合い、課題を共有するという取り組みはまだ十分行われていない。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームから外部評価、利用者の状況や行事予定、運営理念などについて報告し、参加者からはホームの生活について質問が出されるなど、少しずつ地域住民や関係者とのつながりが広がっている。参加メンバーからの声で、今後、地域の認知症の人への関わりについて話し合うことになっている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時に積極的に意見を聞き出したり、運営推進会議や家族会の開催、苦情箱の設置などで要望を引き出す努力をしているが今のところ家族からの意見が少なく、運営に反映するまでには至っていない。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	文化祭や敬老会などの地域行事に参加したり、高校生や婦人会のボランティアの来訪、保育園児との交流、ホームでのお茶会など、地域との交流を積極的に図っている。文化祭には入居者の貼り絵や編物などの作品展示を行った。お寺の行事をとおしての交流も多く、地域の人との触れ合いを大切にしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基本に、地域と共存しながら一人一人の人生を全うするお手伝いをすることを理念として明確に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には理念についての研修を行い理解をしてもらっている。また、朝礼や勉強会などで法人の理事長が理念の実践に向けての具体的な講義を行い、職員全員で理念の共有化を図っている。	○	さらに、入居者一人ひとりのケアに理念が活かされるよう、職員同士で意識的な話し合いを積み重ねていただきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭に入居者の作品を展示したり、敬老会、保育園児との交流、お茶会、お寺の法座などとおし地域の人との交流を図っている。高校生や婦人会のボランティアの訪問もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で話し合い自己評価をしているが、一つ一つの項目を掘り下げて検討し課題を共有するという取り組みには至っていない。	○	全項目を全員で評価し、課題や改善策を考えていくという過程が大切であることを再認識し、改善に結びつく取り組みになることを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームから外部評価、ホームの活動状況、行事予定などを報告したり、参加者からもホームでの生活について質問が出るなど、地域や関係者との交流が少しずつ始まっている。	○	参加者の声から、今後、地域の認知症の人への関わりについて話し合いが行われることになっている。現在は3ヶ月に一回の開催だが、2ヶ月に一回の開催を目指し、ホームの質の向上に結びつくようなより充実した会議になることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人の事務長が定期的に訪問したり、管理者も必要時に電話で連絡や相談をしているが日常的な取り組みとなっていない。	○	管理者も市町村担当者を訪問し情報交換を行ったり、ホーム便りを届けるなど、より積極的な働きかけが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回発行する便りに合わせ、金銭報告、生活状況、身体状況などを報告している。また、面会時や必要時には電話で話をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置したり、運営推進会議や家族会の開催などとおして家族の声が運営に反映されるように留意している。今のところ家族からあまり意見が出ない。	○	さらに家族の声が運営に反映されるように、意見を引き出すための工夫を意識的、継続的に検討していただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動時には、経験のある職員の指導を受け十分な研修期間をとるなど、入居者に対する配慮をしている。デイサービスからの異動もあるが、日常的に交流を行い顔なじみになっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に研修プロジェクトが設置されていて、職員は日々研鑽に努めている。職員全員が研修する機会があり、研修参加後は報告書を作成し全員に周知させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市内のネットワークで情報交換や交流会を行っているが、職員が地域の同業者と交流する機会はまだない。	○	職員がより意識的にサービスの質の向上に取り組めるように、他の事業所との相互訪問や交流会などの機会を設けていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して暮らせるよう、何度かホームの見学をしてもらったり情報交換を行いサービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者を人生の先輩として敬い、昔の料理や野菜のおいしい調理の仕方を教わったり、家事を一緒に行いながら互いに支えあう関係づくりに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	昔話や頑張っておられた頃の話など、入居者の話をよく聞き入居者の思いを引き出す努力をしている。今年5月から介護相談員の受け入れを行っていて、入居者の思いを聞いてもらっている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者が計画案を立て職員の意見を聞いて作成している。本人や家族からも希望を聞き計画に反映させ、具体的な内容になっている。センター方式を取り入れ、より充実した内容を目指している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは次の認定前に行っている。状態に変化がある時はその都度見直し介護計画を変更しているが、記録がきちんと行われていない。	○	状態に変化がなくても1ヶ月に一回程度は細やかな情報を元に見直しを行うことが望ましい。また、記録をきちんとすることで、職員全員で方針を共有されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や入退院の送迎など、入居者の生活を支えるために柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の同意を得て協力医療機関の医師による受診支援を行っている。希望によりかかりつけ医の受診をしている入居者もいる。医師の理解と協力が夜間でも対応してもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重症化してもできるだけホームで対応したいというホームとしての姿勢があり、今年4月から法人内でターミナルケアの研究プロジェクトを発足させ職員も参加している。家族に対しても心配しないように話しているがまだ話し合いは行っていない。	○	家族とも早い時期から話し合いを行い方針の共有化が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導の時には他の人に気づかれないように小声で行うなど、プライバシーを損ねないような対応を心がけている。個人情報については勉強会を行い職員に周知徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事、外出など、入居者のペースや希望を尊重し、入居者に合わせた生活の支援を心がけている。	○	さらに入居者の希望を引き出しながら、その人に合わせた個別の支援を充実することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の力量に合わせ食事作りや後片付けなどを行っている。職員も一緒に会話をしながら食事をしていて和やかな雰囲気があった。お膳や食器はやや画一的で、家庭的な雰囲気にそぐわない。	○	食卓を彩る家庭的な食器やお膳の工夫が期待される。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は法人所有の温泉を利用して入居者は楽しみにしている。身体に負担がかからないようにこのホームとしての思いから週3回実施している。夏場や必要時はホームでシャワー浴を行うこともある。	○	入居者一人ひとりの生活習慣を知り、その日その日の希望を聞きながらより柔軟な入浴支援が望まれる。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、草取り、お茶を立てる、仏壇の花を変えるなど、入居者は役割や楽しみごとを持って生活している。入居者の好きな百人一首やカラオケを楽しむ場面設定もされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、ドライブ、お寺参り、自宅に行くなど、入居者の希望に添った外出支援をしている。	○	さらに食材の買出しなど、日常的に出かける機会を多く設定されることを望みたい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵を掛けないケアを実践している。外出願望のある入居者には職員同士が連携し見守りを行っている。外出された場合は納得いくまで同行している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成いつでも見られるようになっている。年一回消防署の協力を得て避難訓練を実施し、職員それぞれの役割を確認しあっている。警報装置も設置されている。	○	非常用食料や備品の準備が望まれる。地域の協力体制については運営推進会議で話し合うことが計画されている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容については法人のデイサービスの栄養士から指導を受け栄養バランスに留意している。食事量の把握は行われているが、水分量については把握が十分行われていない。	○	脱水症の予防などの為に、職員全員が入居者一人ひとりのおおよその水分量を意識して確認していくことが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、こたつなどの生活用品を置くなど、季節感や生活感を大切に環境づくりを心がけている。テレビのつけっぱなしもなく、包丁の心地よい音が響いていた。バリアフリーの和室やソファがあり入居者が自由に過ごすことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や人形、時計、机、メモ用紙など、入居者にとって必要なものが持ち込まれ、それぞれの思いで環境づくりが行われている。希望により畳を敷いている入居者もいる。		